

第 2 回 保育講演会



日 時 2019 年 11 月 8 日(金)
テーマ たくさんの「うれしい」を届ける
～わたしの絵本作り～
講 師 絵本作家 浜田 桂子先生

去る 11 月 8 日、穏やかな秋晴れの空の下、
絵本作家の浜田桂子先生をお招きして、保育講演
会が開催されました。

絵本の紹介とともに、こどもの自尊心を
育むことの大切さについてお話いただきました。

(参加 59 名)

■ うまれてきてうれしい

『あやちゃんのうまれたひ』



6 歳になったあやちゃんが、お母さんに生まれてきたとき
のことを尋ねるところから物語が始まります。

浜田先生は、中学から高校という多感な時期にご両親を亡
くされました。そこで、やがて消えてしまう命なのに、努
力する意味、生きていく意味について不信感を抱いていま
した。しかし、妊娠、出産を通して、命がつながっている
ことに気付きます。こどもが生まれてきたことはもちろん、
自分が生まれてきたことも素晴らしい奇跡の結果なので
す。生まれてきてよかった、自分の存在が周りを幸せにし
ている、僕が、わたしが、大切な存在なのだと伝える、浜
田先生のデビュー作です。

■ おおきくなるってうれしい

『まよなかかいぎ』『るすばんかいぎ』



真夜中に文房具がゆうきくんの一日について
会議をするお話。文房具たちは泣いたり笑っ
たり、でもいつもゆうきくんの成長を見守り、
応援しています。

こども自身は自分が大きくなっていることを
なかなか自覚できません。

「まよなかかいぎ」では、こどもの成長を一
番近くで見守っている「文房具」という形を
通して、みんながこどもの成長を喜んでい
ること、大きくなるってうれしいことなのだ
ということを伝えています。

■にんげんってうれしい

『てとてとてとて』『わらう』



手は色々なことができます。楽器になり、手遊びをし、こすればあつたまり、お話もできるし、触って感じて、読むこともできる。悲しんでいる人にかける言葉もない時、そっと手を握ったり、握手で仲直りしたり。手は心を伝えることができるのです。

手のもつ力や、笑う力などは、人間にしかできないこと。ごく当たり前の日常に目を向けることで人間の素晴らしさに気付く絵本です。

■平和ってすばらしい

『平和ってどんなこと?』



戦争の悲惨さを伝える絵本では、今を生きるこどもたちの日常となかなかつながりません。今のこどもたちに平和についてどう伝えるか、日中韓の絵本作家で話し合っ出したシリーズの一作。生まれてきてよかったと思えること、他人に共感できること、ひとりひとりが大切にされること、平和ってそういうことなのではないでしょうか。

■さいごに

こどもにとって、絵本を読んでもらった記憶は、愛された記憶として、その空間ごと残っていきます。また、お母さんたちにとっても「今日、叱りすぎちゃったな」と落ち込むこともあるでしょうが、絵本を読むことで「あ、私いいお母さんできたな」と思える。お母さんを励ますこともできるのが絵本なのです。

先生のお話を通じて、子育てのヒントもいただき、あらためて我が子が生まれてきた日のことを思い出しました。命に感謝できる大切な時間をいただき、ありがとうございました。

(さくら広報委員 遠藤、奥平、下向、古谷)

2020年1月17日金曜日の
NHK「あさイチ」プレミア
ムトークに浜田先生が
出演予定です！

昼間のイメージ、夜のイメージ
裏表紙の色も違います・・・



マーガレット・あやめ 植竹 愛

あたたかく、透き通る声でご自身のご両親とのお別れのお話をされた浜田先生。ながいながい間命についての不安を抱えてこられたこと、命はつながっていることに気が付き、誕生のうれしさを心の日記としてつくり、あかちゃんが生まれてくる本が誕生したと教えてくださいました。子どもたちに生まれた日のことを話したことは何度もありますが、最近はいなかったのうれしかったことを伝えたくになりました。また、成長の過程でいろいろな壁に親子で立ち向かうのですが、大きくなるのってうれしいと思えるようにしていきたいです。

「ありがとう」の反対は「あたり前」という話を最近友人としました。平和について考えるとき、今が当たり前なので昔の絵本を見ても実感がわかない息子たちです。戦争の体験をされた方のお話を聞いて感じるようになってきたこの頃なので、「平和ってこんなこと」をど真ん中にもってきた絵本は子供たちをはじめ世界中のみんなにとって必要な絵本だと思います。

子どもたちの感想やファンレターをしっかりと受け止めてくださる浜田先生のお話を聞くことができあたたかい気持ちになりました。ありがとうございました！

本日の講演会を通じて、「子どもにとって自分が大切な子どもである、自分は大切にされていると感じることはとても大事なこと」だとあらためて教えて頂きました。浜田先生の絵本はどれも自分が皆に見守られて包まれているような安心感を感じます。先生の優しいお声にそのあたたかいお人柄があらわれている気がしました。

また、平和であることの尊さについて、こどもが大好きな人といつも一緒にいられたり、思いっきり遊んだり、ぐっすり眠ったり、安心して毎日を過ごせることがとても大切であると痛感しました。気持ちのあたたかくなる講演会をありがとうございました。

さくら赤 黒澤徳子

浜田先生の優しい語りかけ、笑顔に癒されました。

子どもがみんなから大切にされていることを日々呼吸するように感じられることがとても大事というお話が印象に残りました。

私は要領が悪いこともあり、毎日の生活に追われイライラして怒ってしまうことが多々あります。そんな時は先生のお話を思い出し、絵本を読んだり、一緒に遊びに没頭したりとゆっくり子どもと向き合う時間を持ち、娘が生まれてきて良かったと日々思えるようたくさんの愛情を注いでいきたいと思いました。豊かな時を過ごさせていただきありがとうございました。

さくら赤 横山 礼

先生のお話を聞いてから毎日子どもたちに「生まれてきてくれてありがとう」と言っています。子どもたちの行く末がこれからも平和でありますように。

さくら白 池淵恵美子

命は続いている。愛する方たちへの思いを思い返す機会を作っていただきました。ありがとうございます。

浜田先生のご本は全て、子供の存在をまるごと肯定されているのですね。絵本の力で、自尊感情＝生まれてきてよかったんだという気持ちを育て、結果平和をも育てようとしておられる先生を心から応援しております。

存在を喜ばれることなく暮らしている子供達にも、未来にわたり先生のご本が届き続けますように。

自尊感情を持たない子供達は、自分を親を世界を神を憎み、いつか自分と周囲を破壊せざるを得なくなってしまうでしょうから。虐待の連鎖、いじめ、テロ、戦争、自殺、過食拒食、依存症など、平和の対極にあるものの原因なのではと感じています。

温かく聡明なお人柄を感じられる講演会でした、心温まる時間をありがとうございました。

さくら白 奥平つむぎ

浜田先生がご両親を亡くし生きる事に不信感をいただいていた時に、お子さんが生まれ、ご両親の命は終わってしまったわけではなく、受け継がれていっているというお話にとっても共感いたしました。

サインをしていただいた本に描き添えられた絵が、とても素敵で娘とともに長く大切に読み継いでいきたいと思っております。

アネモネ赤 巽 ひとみ

この度は大変貴重なお話を聞かせて頂きましてありがとうございました。“絵本”について改めて考える機会となりました。

浜田先生のお話されるご様子から、とても優しく温かい御人柄が伺え、先生の書かれる絵本そのものだと感銘を受けました。

先生の書かれる絵本は、日常であり且つ実体験を描写されているということで、子供たちにとって親しみやすく、お気に入りとなるのだなと感じました。『てと てと てと て』では、普段は当たり前に使っている“手”は、こんな面白く奥深いものだと言見し、娘と一緒に楽しませて頂いています！

子供にとっては理解するのが難しい事柄も、絵本だと受け入れやすく、理解想像もしやすくなるのだらうと思います。

また、浜田先生の実体験に基づく子供との接し方は、とてもユーモアがあり参考になりました。常に思っている事です…私自身心にゆとりを持ちたいなと思います。

娘の行動や言動には、日々驚かされたり笑わせてもらったりしています。浜田先生の「子供の感覚は非常に優れている」というお話の通りで、きっと私には見えていないもの、感じ取りにくい心の機微があるのだらうと考えさせられました。そんな尊い子供との暮らしの中から、私自身も新たな発見をしていけたらいいなと思います。

本当にありがとうございました。

たんぼぼ白 千葉 恵

「いのち」や「へいわ」に関する絵本もたくさん書かれている浜田先生のお話ということで、少し構えてのぞんだ講演会でしたが、構えるところは全くなく、優しい語り口で時に私たちお母さん方の心に寄り添いながらお話し下さったことが、とても印象的な講演会でした。

子どもたちに、生まれてきてよかった、自分は大切にされている、そういううれしい気持ちを届けるのが、絵本であるということ。

このことを心に留めて、これからもたくさん絵本を読んであげられたらと思いました。

そしてその自分を大切に思える心が、ひいては平和につながっていくように願いも込め、今日も絵本と子どもたちに向き合いたいと思います。

ありがとうございました。

さくら赤 古谷 裕子

「わが子を抱きしめることで自分自身も抱きしめている」という先生の言葉に大変励まされました。絵本を通して多くの子どもたちに寄り添ってきた浜田先生の優しさを、少し分けていただいたような気持ちです。そして、子どもと向き合う暮らしは、私自身の生きる力や心の強さを養うのだと気づかされました。ありがとうございました。



アネモネ赤 渡邊 綾子

笑顔が素敵な先生で、言葉の1つ1つが絵本から出てきたように美しく、お話しの全てに心温まる思いでした。『あやちゃんのうまれたひ』を先生は語りかけるように読み聞かせしてくださいました。親の立場である私自身が、まるで、生まれてきてくれてありがとう、生まれてきてくれてすごいことなんだよ、と声をかけてもらっているような、あたたかい気持ちに包まれ、鼻をすするほど涙が出てしまいました。また、子どもたちが生まれてきてくれた日を昨日のこのように思い出し、やはり涙してしまいました。読んでくださった時間は、私も子どもに戻ったみたいに、ワクワクしながら、お話しの世界に引きこまれ、先生のご紹介して下さった絵本全ての優しさに惹きつけられました。

その中で特に心に残ったお言葉は、「絵本というのは、子どもに生まれてきてくれて、大きくなるというのはとても嬉しいことよと伝える力がある」と仰っていたことです。思えば、毎日バタバタと過ごし、生まれてきてくれたことに感謝しつつも、伝えるのはお誕生日くらいで、日々言葉にできていなかったと、ハッと気づかされました。

また、編集の方が「魔法の世界のように非日常なことは絵本にしやすいが、日常の当たり前なことを絵本にするのは難しい。でも、日常こそ、キラキラすることがたくさんあり、絵本にすることは素敵なこと」だと仰っていたそうですが、先生の絵本を読むと心がほっこりするものばかりで、ああそうか、私たちの毎日が描かれているからなのだ、実感しました。

平和について、「こういうことが起こるから平和が大事という消去法ばかりで、戦争だけが平和ではない」とのお言葉に、今までの自分の考えの狭さに気づかされる思いでした。「平和とは、子ども自身に、私って生まれてきてよかったと知ってもらうこと。自尊心を育てることこそ、共感力を育てることにつながる。」先生はおっしゃっていましたが、子どもに平和とは、と伝える時に、つい難しいテーマと避けがちですが、私も自分で言葉を見つけ、親として大人として人間として、向き合い伝えることが大事だと思いました。

帰宅してから、『あやちゃんのうまれたひ』を子どもに読み聞かせしました。あやちゃんの所に、息子、娘の名前をいれ、読んでみると、「私もこんなに小さかったの?」「おじいちゃんおばあちゃんも来てくれた?」と大喜びし、もう一度!とせがまれました。これからもずっと読み続け、子どもたちに生まれてきてくれたことの喜びを伝え続けます。浜田先生、素晴らしいお話しをありがとうございました。

たんぼぼ赤 湯浅江利子

「あやちゃんのうまれたひ」は今年35歳になります。と、浜田桂子先生は愛おしく絵本を紹介してくださいました。微笑みながらその一冊を最後まで朗読して下さり、先生の生い立ちと稀なご経験、絵本の中のあやちゃんとお母さんの姿と、更に自身の息子の誕生の記憶が幾重にも重なりました。読み終わるころには、「両親から受け継いだ自分の命がここにあること。夫と共に歩んだ日々、家族が待ち望んだ新しい命を授かったことをありがたく、うれしく思う」という気持ちを再確認しました。その「ありがたさ」、「うれしさ」は時に、感情のぶつかり合いで嵐のように吹き荒れてしまった心のどこかに隠れてしまう時もありますが、実は一番深いところにいつもあるということも知っています。日々の生活の一部が一冊の絵本となり、手に取った様々な人が読み伝えていくことで、ここの家族にも、あそこの家族にも、豊かな時間が流れるように思います。ちょうどひらがなに興味を持ち始めた息子へと、「てとてとてとて」を選び注文しました。「手」を使って出来ることの数々。きっと絵本の世界から抜け出して、「ぼくはこんなこともできるよ!」と彼なりのパフォーマンスを見せてくれるに違いありません。

たんぼぼ白 森山 智美

浜田先生の温かみのある口調と優しい笑顔に、とても癒される講演会でした。

「へいわって どんなこと?」を子供たちと一緒に読んでみると、年中の息子はまだよくわからない様子でしたが、2年生の娘は「へいわって優しい気持ち」と答えてくれました。

浜田先生の温かな人柄からたくさんのあたたかい絵本が生まれ、それを子供達はちゃんと受け止めているんだなあと感じ、改めてその素晴らしさを実感しました。

貴重な時間を頂けたことに、感謝したいと思います。

ひまわり・あやめ 木村 華子

最近、下の子が赤ちゃんの時はどうだった？と、聞く事が多く先生のお話とリンクしていても良い時間を過ごす事が出来ました。

特に、絵本の『赤ちゃんが生まれた日』を作られた時に、子どもが自分が大切な存在なんだと感じられる事が大切と考えたとおっしゃっていたのが印象的でした。

下の子も赤ちゃんの頃の話聞かせると、とても嬉しそうな表情をします。子ども達が、小学生になり忙しい毎日ですが、絵本を読む時間を少しでも作り子どもが大人になった時に怒られてばかりだったけど、絵本を読んで貰ったなあと、少しでも思い出してくれたら嬉しいなと思いました。ありがとうございました。

ひまわり・あやめ組 森本やよい

浜田先生の優しい笑顔とやわらかい声に、せかせかした日常生活を忘れゆったりとしたひと時を過ごすことができました。

「あやちゃんのうまれたひ」を読んでいただき、数年前？の出産前後のエピソードを思い出して涙が溢れました。元気で育ってくれたら嬉しい、それだけでいいと思っていたあの頃…今では余計なことを言ってしまう喧嘩になる毎日です。この本を息子たちにも読んで、命のリレーで奇跡的に生まれてきてくれたことを伝えてあげたいと思います。

私は小学校で本の読み聞かせをしています。読み終わると、毎回子どもたちが感想を言ってくれます。五感の鋭い子どもたちは、大人では考えないようなことを教えてくれます。浜田先生は、読者の声が一番！とおっしゃっていましたが、まさにその通りだと思います。

次の一年生本読みでは、「まよなかかいぎ」「るすばんかいぎ」を読む予定です。子どもたちの反応が今から楽しみです。

子どもの身近にある「うれしい、たのしい、かなしい」気持ちを、絵本を通してこれからも共感していきたいです。

アネモネ赤 高尾 瑞絵

いつも保育講演会に参加させていただく度に、お話から感銘を受けると同時に、自分の至らなさを反省することばかりですが、今回の浜田先生のお話を伺い、素晴らしい絵本作家さんであることはもちろんですが、等身大の1人の母親として、日常を遊びに置き換えるなど、今すぐ実践出来そうな育児の心持ちを教えていただき、すごく気持ちが楽になりました。

また読み聞かせは愛された記憶…とおっしゃっていたことがとても印象的で、本当にその通りだと思う反面、私は時々しか読み聞かせができていないので、子供たちが愛されていると感じられなかったらどうしよう…と不安になりましたが、すぐに先生が、だからと言って読み聞かせしなければいけないわけではないですよと教えてください、これもまたすごく気が楽になりました。

今後も自分なりに反省はしながらも、ただ純粋に、この命が繋がっているということに感謝する気持ちだけは忘れずに過ごしていきたいと思いました。

このような時間を与えて頂き、ありがとうございました。

とかく政治的なことに関わるのが苦手な日本人の中において、今この時代に平和とは何かを問いかけるのはとてもデリケートで勇気のあることでしょう。しかし、今まさに幼稚園に通う子どもたちの未来が、今と変わらずに平和な時代であるという保障はどこにもなく、事実世界では貧困や紛争に苦しむ子どもたちがたくさんいます。世界がぜんたい平和になることを願い、先生の絵本をきっかけに親子で考えていきたいと思います。

また「子どもが生まれてから、仕事は一旦横において、子育てに軸足を置いた」というお話に深く共感しました。子育てのために仕事を辞める、という選択は今の世の流れに逆行するようで、「働かないの？」「もったいない！」などと言われることもしばしばありますから、先生のお話にはとても勇気づけられました。日々子どもと関わっていると実感できる幸せに、あらためて感謝しました。

浜田桂子先生の講演を聞かせていただき、とても心が温かくなりました。

わが子は寝るときに手をつないで寝ることが落ち着くようで、「おててかして」といって寝ております。先生のお話を聞いてわが子には「てとてとてとて」の本はぴったりくるなと思購入させていただきました。

本の中には一緒にやろうと誘っているかのようなかわいい子どもたちの絵やフレーズが沢山あり、実際にリズムで手を「タン タン タン！」とたたくところや手での押し合いっこ、手でコップを作って水道の水を飲むなど、読んでいる最中にも子供は「やるやる！」とかわいい手を合わせて楽しんでいました。

先生のおっしゃられた”絵本をよんでもらった記憶は愛された記憶としてのこる”という言葉聞き、思わず自分も兄弟と一緒に本棚にあるノンタンの本を取り出しては母を囲み部屋の片隅で繰り返し読んでもらっていたな、とその雰囲気思い出されてきました。そして、子供にも「愛された記憶」として残っていくのかなと思うと読んでいる私も嬉しくなりました。ありがとうございました。

今回、浜田先生をお迎えしてお話をお聞きできたことに心から感謝いたします。

絵本の大切な役割として「あなたが生まれてきて嬉しい」「大きくなることって嬉しい」と伝えること。そして「いのち」「平和」の大切さを伝えること…など先生の絵本を通してさまざまなことを示してくださいました。

付度のない子どもたち、その子どもたちの「もう1回読んで…」という言葉から、くり返し読まれ、ベストセラーを作る…とおっしゃっていました。

親から子へ。子から孫へ。本当にいい本は長い年月読み継がれていきます。

「あやちゃんの生まれた日」の絵本を買われたお母さんが、サインをしていただく時にご自分の名前とお子さんの名前を書いていただいていたいました。

命のつながりに感謝されておられ、それと同時にその絵本も繋がっていくことを願われているのではないかと感じ、とてもすばらしいと思いました。

絵本を読む親子の時間は宝物の時間です。

絵をよく見ると字がなくても語っていることがあります。子どもと一緒にじっくり素晴らしい時間が過ごせたらと思います。動画や映像を見ることが多い世の中です。また、キャラクターを用いられているものも多くあります。そのような中で絵本の存在は大きいものです。

図書館にある本の中で 25%を絵本が占めるそうです。子どもが「もう一回」という絵本は手元に置き、大切な一冊になればと思います。

今回浜田先生をご紹介くださったのは、私共と長年親交のあるこどものとも社さんです。

こどものとも社は、子どもたちのために心を込めて絵本作りをされています。

ある作家さんは一つのある部分を描き上げるのに、何度も何度もその現場に足を運び、あらゆる角度から目を見て、感じて、時間をかけて丁寧に描かれています。

絵本は字がなくても絵が語るものもおおくあります。

こどものとも社はメールのやり取りではなく、直接作家さんと会ってやり取りをして絵本を作り上げていくそうです。

今年度も3学年、年間を通してこどものとも本を読んでいます。中には普段は選ばないであろう絵本もあります。そこに決して出会わないであろう出会いがあります。

そのような出会いを大切にできればと思います。

(奈良)